

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	このて		公表日 2025年2月25日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	1	カーテンや衝立を利用したり訓練室を併用し、お子さんの体調や特性に応じて活動ができるようにしている。	活動に必要な大型のクッションや斜面、個人用椅子などの収納場所が限られているため、活動に制限が出ない様な収納方法を考えていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1	その日担当する児を決めておき、さらに声をかけ合い安全に過ごせるようにしている。	職員の休憩や放課後デイの送迎時間など、手薄にならない様に職員確保が課題である。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1	玩具の配置をスタッフ間で話し合い、利用児に合わせて配置場所や数を減らすなどしている。段差には、段差スロープをつけている。	歩行の獲得が進んでいるお子さんが増えて、スタッフ同士の声かけなどで対応することが出てきたので、さらに対策を考えていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	1	大型のクッションや個人用椅子などの出し入れや整理整頓を、こまめに行う。	使っていない椅子や備品を2階倉庫に片づける等をこまめに行っていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		児の体調不良時や静かな空間が必要になった時などに訓練室を利用している。	利用児が多い時に、他の児の活動に制限が生じないように、他の対応方法も考えていく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	2	全体で話し合う機会が少ないので、日誌の活用をしたり、活動前後、午睡時に話し合いを多くもつようにしている。	会議のために、月に1回程度利用時間を短くするなど考えていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	事業所に掲示し共有している。日々、意向があれば共有し、対応について検討実施している。	引き続き行っていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		面談や、職員間で意見やアイデアを出しやすい環境を心がけている。アイデアを検討実施し、改善につなげている。	引き続き行っていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		外部評価について、他事業所などからも情報収集を行い検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		研修の案内を掲示したり、職場内研修を書面や動画等の視聴で定期的に行っている。	今後も積極的に行っていく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	1	スタッフ間でも周知を行っている段階。	引き続き行っていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		面談や、普段の活動の様子、ご家族との会話の中で、ニーズや課題を把握している。	引き続き行っていく。面談をさらに積極的に行う。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	1	日々気づいたことを話し合い検討している。	引き続き行っていく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		計画書を日誌に入れておき、いつでも見られるようにしてある。	引き続き行っていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	2	日誌やおたより帳を活用して状況を把握している。	フォーマルなアセスメントが必要かどうかの検討。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	2	計画立案の際は、必要な項目を適切に設定するよう心がけている。現在計画立案について、研修を受ける等のスキルアップを行っている。	引き続き行っていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	役割分担をして行っている。	全体的に関わる職員を増やすことが課題。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	1	各児に合った活動を、話し合いながら取り入れている。固定化しないよう、アイデアを出し合う。	意図的に変えない場合があるので、職員やご家族への説明を丁寧に行っていく

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4	1	小集団を利用した、各児に合わせた集団活動が可能になっている。	各児に合っているかの確認と、計画への反映を行っている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		紙に書いておくことで、見直したり確認ができるようにしている。	引き続き行っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2	日誌の活用により、入れ替わるスタッフに振り返りを共有できるようにしている。	スタッフの入れ替わりがあるため、全員での共有が課題。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		各職員に記録を書く時間をとっている。	引き続き行っていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	1	職員間で意見を出し合い、必要性の判断をしている。	定期的なモニタリングを確実に行っていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		参加前には、児に関する情報を職員間で確認する。	引き続き行っていく。参加できる職員を増やしていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		ご家族を通して、送迎時など、普段からコミュニケーションをとるなど連携をとりやすいように心がけている。	引き続き行っていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1	移行を視野に、支援内容を検討し支援している。情報共有できるように、ご家庭を通じて併用先の様子を伺うなどしている。	園での様子など見学に行き、支援内容を検討することを行っていく。移行先とすぐに連絡がとれるように準備をしていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1	行政や入学先との連絡を取り合っている。	就学時の連携について、必要な情報を職員と共有していく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	1	児童発達支援センターの研修会に参加するなど、コミュニケーションをとり、相談を行うなどしている。	多職種でスーパーバイズを受けられるように、職員間で共有していく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		5		地域の方との連携を図り、交流の機会を検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎の際に、児の姿を共有することを大切にしている。	引き続き行っていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2	必要に応じて、情報の提供を行っている。	さらに積極的に情報を提供していく。	
〇	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		必要に応じてわかりやすく説明している。	支援プログラムについては、今一度おたよりにて周知を行う。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		普段の様子や会話の中で、利用児とご家族の意向を読み取り、職員間で共有している。	定期的なモニタリングを積極的に行う。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		面談を調整して行っている。	引き続き行う。さらに定期的な面談を計画的に行う。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		相談に応じて、各専門職で対応できるようにしている。	引き続き行っていく。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	4	場所の提供や、送迎の際に話すきっかけづくりを行うことがある。	積極的に、交流の機会を設けていきます。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		相談しやすい雰囲気づくりを心がけている。相談があった場合には、共有・検討・対応を早急に行っている。	相談についての周知を積極的に行っていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		このてだよりの発行。	定期的におたよりを発行し、ホームページの更新を行っていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		定期的に研修等で確認。	引き続き行っていく。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	2	特性に応じて配慮を行っている。	職員間で共有し、引き続き行っていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		地域の方との交流を図り、地域の方知っていただく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	3	訓練の報告、周知を進めている段階。	さらに積極的に報告と周知を行っていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	1	訓練後に見直しを行うようにしている。	回数を増やし、迅速な対応ができるようにしていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		看護職と状況を確認している。	引き続き行っていく。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		5	該当児なし	引き続き、事前に確認を行う。変更がないかの確認も行う。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	2	安全管理計画の周知、研修や訓練についての情報収集を行っている。	引き続き理解を深めて支援につなげていく。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	3	周知をしている段階。	積極的に周知を行う。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1	ミーティング等で共有する。	書面を積極的に活用して再発防止に努める。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		動画での研修後、検討や感想を交流し合う。	引き続き行っていく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		5	該当児なし	該当児が出た場合は、検討実施する。	